

弘前大学理工学部後援会報

第 5 号

発行日 平成21年3月4日
 発行者 〒036-8561 弘前市文京町3
 弘前大学理工学部後援会(理工学部内)
 印刷所 (株) 笹 軽印刷
 連絡先 宮永 崇史(理事・教員)
 TEL : 0172-39-3551

知能機械工学科創立10周年記念講演会開催される

弘前大学理工学部知能機械工学科は、平成二十年に創立十周年を迎えました。これを記念して、二〇〇八年四月三十日(水)に弘前大学創立五十周年記念会館「みちのくホール」において「知能機械工学科創立十周年記念講演会」を開催しました。この記念講演会の実施にあたり、事業資金に關しまして、弘前大学理工学部後援会の全面的なご支援をいただきました。ここにお礼申し上げながら、記念講演会についてご報告致します。

記念講演会に先立ち、記念のセレモニーをおこないました。最初に、知能機械工学科学科長の福田 眞教授から、学科を育てていただいたお礼のご挨拶をさせていただきました。つづいて、ご来賓の弘前大学学長の遠藤正彦先生から祝辞をいただきました(写真1)。青森県内から工学系の学科設置の要望もあつて知能機械工学科がその一つとして誕生したといういきさつとともに、発展を目指して努力するようにとの激励のお言葉をいただきました。同じくご来賓の青森県工業会会長の東 康夫様から、産業界からみた機械系・ものづくり系学科への期待は大であり、日常的な産学連携が大切であると祝辞をいただきました。



写真1
祝辞を述べられる遠藤正彦弘前大学学長



写真2
「F1レース技術への挑戦」と題して講演される櫻原一雄氏(本田技術研究所)

記念式典の最後に、知能機械工学科の開設にあたり、その準備から立上げ、さらには学科運営と、学科の誕生に終始かわつてきた稲村隆夫教授(現在、理工学研究科長)から「知能機械工学科十年の歩み」と題して、学科の歴史の詳細について記録やデータに基づいて紹介がありました。多くの方々のご支援を得て今日の日を迎えていることと併せて、学科に参加してきた卒業生、OB教員の力によるところ大であると感謝の言葉が述べられました。

記念式典につづいて、この日のメインイベントである記念講演会をおこないました。この講演会は、当該の知能機械工学科のみならず全学の学生・教職員をはじめ、さらには広く市民にも関心をもつて参加いただけるようにと、実行委員会が知恵を絞つて、機械工学における技術開発の夢を伝える講演会として企画したものであります。

(株)本田技術研究所 四輪開発センターでシニアマネージャーを務められている櫻原一雄様に、「F1レース技術への挑戦」と題して一時間三十分にもおよぶ講演をいただきました(写真2)。アコードなどのホンダ車の設計のご担当を経て、F1マシンの開発にかかわつてこられたご経験から、開発技術者としての熱い想いが、講演会場にとどろくF1エンジンの爆音とともに語られました。「先



写真3
会場の「みちのくホール」をうめた参加者

った学生や卒業間もない若い技術者を大いに鼓舞していただきました。

この記念講演会には、会場の三百席の「みちのくホール」を埋め尽くすほどの多くの皆さんに参加いただきました(写真3)。市民の方からも質問があり、F1マシンをはじめとする自動車開発技術への関心の高さがうかがわれました。

記念講演会終了後、会場を弘前パークホテルに移し、ご来賓の遠藤正彦先生、東 康夫氏、記念講演会講師の櫻原一雄氏のご出席をいただいて、学科関係者による記念祝賀会を開催しました。卒業生およびOB教員の全員から近況報告があり、学科の十周年をともに祝いました。

これらの企画は、学科内に設置した知能機械工学科創立十周年記念事業実行委員会が計画し、弘前大学理工学部後援会の全面的なご支援によって実行することができました。つぎの十年に向けて新たなスタートを切った知能機械工学科一同より、すべての関係者の皆様に、あらためてお礼申し上げます。有難うございました。

牧野英司(知能機械工学科創立十周年記念事業実行委員長)

新会長あいさつ

会長
三 浦 賢 二



後援会報四号の稲村学部長、六学科長メッセージに学部変遷の紹介もありました。私は理工学部の前の前、文理学部理学科卒業。数学専攻の倉前会長とは同期で私は物理学専攻。私らの卒業後に理学部が誕生しました。

当時私はむしろ工学に関心が強かったのですが、勾坂先生のコメントのように物理学の「論理と実証性を厳密に追及する」という方法論には共感し卒業したといえるでしょうか。でも反省ばかりの生き方してますが・

日本のノーベル賞受賞者の出身地を調

べてみたことがあります。今回もそうかも知れませんが。関東以南なので。田中耕一氏は富山県。『北のまほろば』という響きを私は好きです。その地、雪国の人間の我慢強さや粘りというのは研究や仕事の上で大切だと思ふのですが、これからなんです。仙台、札幌、弘前・・・どこが芽を出すか。雪への対応、生かし方も含め人々に役立つものを究める営みが肝心です。ノーベル賞は目標ではありません。

私は高校物理の教員になりました。最後に勤めた青森高校の校長室で、卒業生である石館守三先生の業績や人間性の記事に触れました。ハンセン病の特効薬を独自に開発され、国立衛生試験所長も勤め、我が国の薬学の研究発展に大きく貢献されたことを集会等で生徒たちにも紹介したものです。実は現在、医・歯・薬学部をもつ某大学を手伝っている身ですが、母校理工学部後援会にどう貢献できるか思案中という次第です。

「楽しい情報による連帯」

理工学研究科 雨 森 道 紘

通常は、後援会会員には、何か大学に予算的支援が必要となったときに初めて、思い出したかのように募金要請状が回ってきて、なんとかお願いします、という段取りになるようである。大抵の反応は、「えっ！どうしよう」となるのである。私は、もともと普段から大学の整理された情報を流しておけば良いと思っている。「ああ、いよいよあれが始まったのか」とか、たとえば私費留学生などが、鍛冶町の食堂で遅くまで皿洗いをしながら学費を稼いでいる状況などを、『学園だより』のよな読み物の中で会員にも知らせていたとすれば、その後、大学が、経済危機の中でそのような学生に支援したいという意志を表明して、後援会費の一部を充てようとしたときにも会員の納得は得やすく、会員によつてはこの際ももう少し支援しても良いという人もでてくるかもしれない。

かつて大学の機関紙『学園だより』の編集に携わっていたとき、我々が特に心掛けたことは、面白く興味を引く読み物を作ることであつた。手前味噌であるが、実際にその年度は、様々な試みがなされ、『WHOの地獄絵』を付けたタバコの害についてや、大学内の名所旧跡案内、などの幾つかの内容の価値は今でも衰えてはいないと思う。最終号に、『学園だより』を含む大学の様々な情報誌の将来について編集委員の見解を各自述べている。その中で私が述べたことを敷衍すれば、「我々は将来大学を去ったとき、かつての職場で今どのようなことが行われているのか、若い学生、教師、はたまた事務方

の活躍などにも、興味がないわけではないと思う。それらが単なる事務連絡のような文章でしか与えられないなら、そのような内容は追っ付け興味を失わせるだろうが、新鮮な「大学の今」を伝える確かな読み物として纏め上げられたものならば、卒業生、退職者にしても待ち遠しい情報誌となるのではないだろうか。そのためには大学当局が、現在の様々な大学情報を一元化して管理して発信するか、あるいは編集者の協力も得て「学園だより」+「ひろだい」+「info」や図書館「豊泉」+「etc」などの興味深いものの全部あるいは一部を取り上げ、いづれにしても小冊子の面白い読み物に仕上げる。今の『ひろだい』に少し大学内の学生教職員の人間模様が加わったものとも言えようだろうか。後援会独自の「サイト」を立ち上げて更新の時期を年二回とかハッキリ決めて、上記の小冊子を掲載し、それは大学HPからもリンクを張っておく。書かれた内容が面白く会員を引きつけるならば、それこそが強力な大学の支援組織を作る一つの手段となる筈である。卒業生や退職者は膨大な数の弘前大学の広告塔である。彼らに「大学の今」を与えるなら、それらは多くの口コミや人間関係によつて、友人・親戚・甥・姪・孫・従兄弟etcを通して伝達されていくのである。全ての地方大学は、いまやいかにして大学の支援基盤を強固なものにするかというのが喫緊の課題である。この試みは、相互に楽しみを分かち合いながら組織を強固なものにする有効な方法の一つとなりうるのではないだろうか。

ニュースリリース

2008年5月19日

弘前大学大学院 山口章久君、
国際液晶学会 Glenn Brown Prize 受賞

本学大学院理工学研究科博士後期課程一期生の山口章久君(昨年三月学位取得)が国際液晶学会より Glenn Brown Prize を受賞することになりました。

この賞は、液晶研究に関する博士論文を対象として、二年に一度四名に与えられ、今回は二〇〇六年から二〇〇七年が対象となります。今回の受賞者はアメリカ二名、イタリア一名と本学の山口君です。六月二十九日から韓国済州島で開催される国際液晶会議にて世界の液晶研究者の前で受賞講演を行います。

Glenn Brown Prize は博士論文を対象とした言わば新人賞ですが、国際液晶学会では学会賞に相当する賞がないこともあり、液晶関係の国際賞として最も大きな賞です。欧米の各大学院の卒業生との競争の結果であり、弘前大学の液晶研究の水準の高さを示したものと云えます。



弘前大学理工学部後援会 平成20年度 研究発表補助

前 期			
専攻名	氏名	発表学会名	発表論文・題目
物質理工学	糸賀 達規	第11回 XAFS 討論会	FeRh合金の相転移における局所構造変化
物質理工学	大森 悠佑	第11回 XAFS 討論会	充填スクッテルダイト化合物RFe ₄ Sb ₁₂ (R=Pr,Nd), R ₂ Ru ₄ Sb ₁₂ (R=Ce,Pr,Nd)のXAFSによるラットリング機構の研究
物質理工学	重野 友	第11回 XAFS 討論会	Quick XAFSによるAgゼオライト中の発光化学種形成機構の研究
物質理工学	山田 努	第11回 XAFS 討論会	Mg _x Zn _{1-x} O薄膜の偏光XAFSによる局所構造分析
地球環境学	小野 文香	日本地球惑星科学連合 2008年大会	地震及び地殻変動データから推定される南千島弧の前弧スリパーの横ずれ運動
地球環境学	平塚 晋也	日本地球惑星科学連合 2008年大会	2004年スマトラ地震の震源域で発生する地震の断層面解とバックスリップによる応力との関係
知能機械システム工学	有原 浩之	2008年度精密工学会 秋季大会	ECRスパッタによる酸化高誘電体薄膜の形成と電気特性評価
知能機械システム工学	安井 秀憲	2008年度精密工学会 秋季大会	ECRスパッタによる高配向AIN薄膜の低温形成

後 期			
専攻名	氏名	発表学会名	発表論文・題目
物質理工学	澤田 達哉	平成20年度化学系協会 東北大会	ナフタリン誘導体の水溶液中での分子内・分子間相互作用と蛍光による金属イオン認識
物質理工学	水島 陽	平成20年度化学系協会 東北大会	ブッシュ-ブル型シアニン-シアニンハイブリット構造を利用した有機エレクトロミズム分子の合成
電子情報システム工学	井上 洋平	日本写真測量学会 平成20年度秋季学術講演会	衛星データからの周期パターン領域の抽出
知能機械システム工学	竹内 博子	電気学会 第25回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム	ヒアロロン配分子のナノ薄膜電極への固定および伸長とAFM観察
知能機械システム工学	目時 匠	第46回 燃焼 シンポジウム	CH ₄ /Air噴流拡散火災のシャボン玉消火
知能機械システム工学	風晴 勇太	第46回 燃焼 シンポジウム	微小重力環境下における薄い可燃性固体の燃え拡がり限界
知能機械システム工学	藤本 直文	第46回 燃焼 シンポジウム	拡散火災のレーザ消火への照射エネルギーの影響
安 全システム工学	下總麻衣子	国際有機石油学会	泥質岩中のマセラルとピジュアルケロジェン分析の組成比較

弘前大学理工学部後援会
役員等一覧 (2008.06.11現在)

○会長

三浦 賢二

○副会長

日野 了一

○理事

・通常会員

齋藤 哲 (数理科学科)

石岡 誠 (物理科学科)

土岐 直幸 (物理科学科)

成田 孝文 (物質創成化学科)

海老名英俊 (物質理工学科)

日野 了一 (地球環境学科)

柿崎 均 (地球環境学科)

工藤 英嗣 (地球環境学科)

大高 正夫 (電子情報工学科)

佐藤 武英 (電子情報工学科)

山内 敏春 (知能機械工学科)

・特別会員

倉坪 茂彦 (理工学研究科教授)

宮永 崇史 (理工学研究科教授)

柴 正敏 (理工学研究科教授)

・賛助会員

三浦 賢二

(弘前大学文理学部昭和40年3月卒業生)

○監査

奈良 昌孝 (電子情報工学科)

成田 金貞 (電子情報システム工学科)

○顧問

稲村 隆夫

(弘前大学理工学研究科長・理工学部長)

(敬称略)

平成19年度 弘前大学理工学部後援会決算書

◎収入の部

平成20年3月31日

項 目	金 額	摘 要
会 費	3,502,000円	入学生(19年度) 105人 1,820,000円 入学生(20年度) 47人 930,000円 在学生 37人 685,000円 卒業生 1人 5,000円 教職員 31人 62,000円
預 金 利 息	1,981円	
前年度繰越収支差	7,244,074円	
計	10,748,055円	

◎支出の部

項 目	金 額	摘 要
教育・研究支援費	302,300円	大学院生研究発表補助 ・前期分6件(144,400円)、後期分7件(157,900円)
	517,042円	学科事業補助 ・学科学外研修4件(77,018円) ・学科基礎ゼミスポーツ大会1件(6,164円) ・学科パンフレット作製1件(234,570円) ・学科掲示板整備1件(199,290円)
	173,545円	学部事業補助 ・理工学部サイエンス・パーク開設(118,545円) ・八戸高専とのシース提案会(20,000円) ・退職教員最終講義花代(35,000円)
就職対策支援費	39,400円	インターンシップ旅費補助1件(18,400円) 就職ガイダンス1件(21,000円)
卒業・修了祝賀会	30,000円	退職教員花束贈呈(6人)
高大連携事業支援費	0円	
印 刷 費	258,825円	会報第4号(242,025円) 会費払込取扱票(16,800円)
郵 送 料	83,975円	加入案内送料(研究科新入生)(6,075円) 加入案内送料(在学生未加入者)(71,100円) 会費重納分返還送料他(6,800円)
会 議 費	5,200円	役員交通費
事 務 費	180,000円	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消 耗 品 費	9,861円	プリンタラベル用紙、PPC用紙他
郵便振替払込費	25,710円	会費払込手数料(221人)
会費重納分返還	40,000円	会費返還(4人)
次年度以降事業費等	9,082,197円	
計	10,748,055円	

平成20年度 弘前大学理工学部後援会予算書

◎収入の部

平成20年4月1日

項 目	金 額	摘 要
会 費	3,685,000円	入学生(20年度) 106人 1,815,000円 学部学生 75人 @20,000 1,500,000円 大学院生(前期課程) 30人 @10,000 300,000円 大学院生(後期課程) 1人 @15,000 15,000円 入学生(20年度) 50人 @20,000 1,000,000円 在学生 40人 @20,000 800,000円 教職員 35人 @ 2,000 70,000円
前年度繰越収支差	9,082,197円	
計	12,767,197円	

◎支出の部

項 目	金 額	摘 要
教育研究支援費	500,000円	大学院学生研究発表補助
	1,000,000円	学科事業補助
	500,000円	学部事業補助
就職対策支援費	100,000円	インターンシップ旅費補助(20,000円×5人)
卒業・修了祝賀会	100,000円	理工学部同樹会と共催
高大連携事業支援費	100,000円	協力学生謝金(20,000円×5人)
印 刷 費	300,000円	会報(125円×2,000部)、加入案内他(50円×1,000部)
郵 送 料	90,000円	加入案内送料(90円×1,000人)
会 議 費	25,000円	役員交通費
事 務 費	180,000円	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消 耗 品 費	10,000円	プリンタラベル、コピー用紙他
郵便振替払込費	30,000円	会費払込に係る手数料(120円×250人)
次年度以降事業費	9,832,197円	予備費を含む
計	12,767,197円	

編集後記

本年度新たに理事になり、最初の会報の編集を行いました。勝手がわからず、いろいろな方に迷惑をかけてしまったかもしれません。本年度は新しく三浦賢二先生に後援会会長をお願いすることになりました。こういう時代には、新体制で臨むことも偶然ではなさそうです。国立大学が法人化されて六年目に入りましたが、弘前大学を取り巻く状況も厳しくなりつつあります。その上に、世界的不況が襲いかかり、閉塞感が立ち込めます。しかし一方で、新しい時代の幕開けとなる潜在的な力も蓄積されてきています。それが、大きく開花するような新しいアイデアを生かし、それを援助できるような後援会になればと願っています。そして何より、理工学部で学ぶ学生が現状に委縮するのではなく、自分が世界を変えるのだという意気込みをもって社会に巣立ってゆく環境を整えてゆきたいと考えています。

ニュースリリース
記事に関する
お問い合わせ先

弘前大学大学院 理工学研究科
吉澤 篤
〒036-8561
青森県弘前市文京町3番地
Tel : 0172-39-3558
e-mail : ayoshiza@cc.hirosaki-u.ac.jp